

平成25年5月10日
大阪市立自然史博物館
担当：学芸課 主任学芸員
波戸岡 清峰 (動物研究室)
電話 06-6697-6222

大阪市立自然史博物館 第44回特別展
「いきもの いっぱい 大阪湾 ～フナムシからクジラまで～」
の開催について

大阪市立自然史博物館では、平成25年7月20日(土)から10月14日(月・祝)まで、特別展「いきもの いっぱい 大阪湾 ～フナムシからクジラまで～」(日本財団助成)を開催します。

磯をほうフナムシから、時には太平洋から迷い込むクジラまで、大阪湾にはたくさんの生き物がいます。まさに大阪湾は生き物のワンダーランドなのです。この特別展では大阪湾にくらす様々な生き物の姿、それらを取りまく自然環境、そして漁業などを通じた人との関わりについて、貴重な標本や実物資料、写真、映像などをご紹介します。

なお、本特別展は、行政・市民・研究者の連携による「大阪湾再生行動計画」を発展・継承させるプログラム「大阪湾 Years 連携企画展事業」の一環として開催します。

○プレス内覧会を開幕前日の平成25年7月19日(金)午前11時より、自然史博物館本館集会室で行います。プレス内覧会取材申込書にて前日までにファックスでお申込みください。

○広報用写真、読者・視聴者プレゼント用の招待券をご用意しています。広報写真申込書、招待券申込書もファックスでお申込みください。

■開催概要

- 1 名称 特別展「いきもの いっぱい 大阪湾 ～フナムシからクジラまで～」
- 2 主催 大阪市立自然史博物館
- 3 後援 大阪府教育委員会、大阪湾再生推進会議、大阪府漁業協同組合連合会
- 4 協力 船の科学館・海と船の博物館ネットワーク、日本財団助成
- 5 会期 平成25年7月20日(土)～10月14日(月・祝)
- 6 休館日 月曜日(ただし、月曜日が休日の場合はその翌日)
- 7 会場 大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール
(花と緑と自然の情報センター 2階)
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23
TEL 06-6697-6221 FAX 06-6697-6225
地下鉄御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR 阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m
ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>
- 8 観覧料 大人500円、高校生・大学生300円(30人以上団体割引あり)、中学生以下無料。
※本館(常設展)とのセット券は、大人700円、高大生400円。
※障がい者手帳などをお持ちの方、市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料。
※本館(常設展)、長居植物園への入場は別途料金が必要です(セット券を除く)。
- 9 開館時間 午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)。

■展示の構成

大阪湾の歴史：江戸時代から始まった干拓、明治以降の港湾の開発、そして現在の姿までを、絵図や海図等によって紹介します。

大阪湾の基礎データ：大阪湾の地形、海流、水質、水温などの基本環境について、フジツボやゴカイなど環境指標生物、海底地形模型などを用いて解説します。

→写真：塩分濃度の低い場所（内湾の河口等）で見られるタテジマフジツボ。



沿岸の自然：海峡（明石海峡、紀淡海峡）、湾奥部、河口（淀川、男里川など）、砂浜（貝掛海岸など）、磯（岬町、加太など）、再生自然環境（南港野鳥園、阪南二区）といった沿岸の自然について、魚類、貝類、甲殻類、爬虫類、鳥類、昆虫や植物の実物標本、景観写真、水槽展示を用いてその生物多様性を紹介します。

→写真：豊国崎の磯



大阪湾の漁業：大阪湾で行われている各種の漁業について、実際の漁具（底曳き網の一種である石げた網、主にイワシを獲るバッチ網、アナゴ籠、タコ壺など）や標本、写真を用いて解説します。

昔の大阪湾：錦絵（浪花百景、摂津名所図会など）、絵図（兵庫県漁具図解）、昔の絵はがき、市民から寄せられた古い写真などにより、江戸～昭和にかけての大阪湾の原風景を紹介します。

→写真：浪花百景「住吉高とうろう」



大阪湾の「宝島」一成ヶ島：淡路島の南東に位置する成ヶ島では、貴重な生き

物が続々とみつかっています。魚類、貝類、甲殻類、その他様々な生き物の標本や写真により、その自然を紹介します。

→写真：成ヶ島（兵庫県洲本市）

→写真：成ヶ島のハクセンシオマネキ



外海とのつながり：大阪湾は広大な外海とつながっている海です。そのつながりは外洋の生物の訪問で知ることができます。その象徴的な例として、2010年5月に大阪府堺泉北港に漂着した体長9.1mのマッコウクジラの全身骨格標本、ウミガメ類、その他の外洋生物の標本などを紹介します。

→写真：堺泉北港に漂着したマッコウクジラ



大阪湾の抱える問題：自然海岸の消失、富栄養や赤潮、貧酸素水塊と青潮、外来生物など、大阪湾が抱える様々な問題を標本や写真で解説します。また、大阪湾の環境調査や自然保護に取り組む各地の市民団体の活動を紹介합니다。

トピック：大阪湾に漂着したミンククジラの頭骨標本、大阪湾に生息する小型鯨類スナメリの全身骨格標本、大阪湾のカモメの生態、大阪湾の海藻おしば標本、大阪湾の魚介類を使った郷土料理、大阪湾の全沿岸連続写真など。

■主な展示および広報用資料写真・画像（これらの資料は広報目的でのみご利用いただけます）

1. マッコウクジラ全身骨格標本

2010（平成22）年5月、体長9.1mのメスのマッコウクジラが大阪府の堺泉北港に死亡漂着しました。自然史博物館ではこのマッコウクジラを回収し、解体して骨格標本として収蔵しました。今回の特別展では、この骨格標本を生きていた時の姿に復元（全身骨格標本）して展示します。また、マッコウクジラはイカを食べることで知られており、解体時に胃から大量のイカ類の歯を回収しました。そのうち、種類のわかった数種（ダイオウイカなど）を展示します。
※全身骨格標本は現在組立作業中です。この標本の広報用写真は6月下旬（予定）にご提供の予定です。

2. 1958（昭和33）年当時の浜寺

本特別展では、市民の皆さんから募集した大阪湾の古い写真を展示します。この写真は1958（昭和33）年当時の浜寺（大阪府堺市）の様子です。戦後の高度経済成長期に湾岸の開発で埋め立てが始まるまで、大阪府下でもこのような自然の渚が広く見られました。（写真提供：浦野信孝氏）



3. 岬町豊国崎で採集したワカメの押し葉標本

ワカメは北海道から九州の磯に生息する褐藻で、日本人にとって最もなじみ深い海藻です。大阪湾でも漁獲され出荷されています。売られているワカメは乾燥や塩蔵加工されて元の姿がわかりにくくなっていますが、生きている時のワカメは大きくなると2メートルを超えることもあります。



4. 兵庫県漁具図解（関西学院大学図書館所蔵）

1897（明治30）年に神戸の和楽園で開催された第2回水産博覧会に出展するために、大日本水産会兵庫支会が編集・刊行した資料です。兵庫県下の地域ごとの漁具・漁法について、それらを彩色で図解するとともに、魚種や漁期、漁具新調にかかる経費、使用法などを調査・記録



した貴重な資料です。今回の特別展では、大阪湾沿岸の各地域（尼崎、神戸、明石、淡路島東岸）が含まれる巻の実物を展示するとともに、原図の高精細デジタル画像を来場者が自由に拡大閲覧できる展示を設けます。

写真は「イカナゴ地曳網使用図（明石郡垂水村ノ内塩屋村）」。

※資料保護のため、実物は展示替えを行います。

※この図解の写真を広報目的で使用する場合は、関西学院大学図書館への手続きが必要です。詳しくは当館担当者にお問い合わせ下さい。

5. 大阪湾の昔の絵はがき

明治時代の写真の普及とともに、各地で絵はがきが発行されるようになりました。昔の風景や景観を知るうえで、絵はがきはとても参考になる資料です。本特別展では明治～昭和期に発行された大阪湾沿岸の各地の絵はがき（風間コレクション）を紹介します。



写真は舞子海岸の絵はがき（昭和初期）。

6. 岬町多奈川で使われていた素焼きのタコ壺

隠れ家となるような空間を好むタコの性質を利用した「タコ壺漁」は、古くから各地で行われてきました。以前は素焼きのタコ壺が使われてきましたが、現在のタコ壺はほとんどがプラスチック製です。写真は1970年代以前に岬町多奈川で実際に使われていた素焼きのタコ壺です。



7. 大阪湾から消えた生き物：トビハゼ

トビハゼは干潟を代表する魚類の一つです。かつては、大阪湾南部の各地の干潟で見られたようですが、1979年に男里川河口で繁殖が確認されて以来あまり見かけることがなくなりました。見かけても数年に1回くらいで、他の繁殖地から流されてきた稚魚が成長したものと考えられています。展示標本は1979年のものです。



8. 海浜植物：ハマヒルガオ

代表的な海浜植物で、5月頃にピンク色のかわいらしい花をたくさん咲かせます。大阪湾沿岸でも広く見られますが、阪南市の貝掛海岸には大きな群落があります。貝掛海岸には大阪府下では貴重となった砂浜が残っています。



9. 干潟の生き物：アシハラガニ

名前のお通り、ヨシ(アシ)原にすむカニです。雑食性ですが、小型のカニなどを捕食することが多いようです。大阪湾ではアシハラガニがすむようなヨシ原は少なくなりましたが、淀川河口のほか、男里川を始めとする泉南の河口干潟で見ることができます。特別展ではこのような干潟の生き物を水槽で飼育展示する予定です(展示種は変更になることがあります)。



10. 磯の生き物：フジタウミウシ

大阪湾の南東岸、大阪府岬町から和歌山市加太には自然の岩礁海岸が残されています。ここではたくさんの磯の生き物が見られます。写真は田倉崎で見つかったフジタウミウシです。特別展ではこのような磯の生き物を水槽で飼育展示する予定です(展示種は変更になることがあります)。



★大阪湾再生行動計画とは

全国的な都市再生プロジェクトの一環として、平成 16 年に大阪湾再生推進会議（国土交通省をはじめとする国の機関および地元の地方自治体で構成）によって策定された 10 ヶ年計画。森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにか）の海」を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる大阪湾を創出することを目標としています。

<http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/suishin/index.html>

★大阪湾 Years 連携企画展とは

大阪湾再生行動計画が平成 25 年度に最終年次を迎えることから、最後の 2 年間に“大阪湾 Years2012-2013”と名づけ、大阪湾に対する市民の関心を高め、今後の再生行動につなげていく取り組みが、行政機関や市民団体、学識者など多様な主体によって進められています。大阪湾を囲む博物館・水族館 7 施設*はこれに賛同し、平成 25 年度中に「大阪湾 Years 連携企画展」として、大阪湾に関連した企画展示をそれぞれの施設において開催します。

*神戸市立須磨海浜水族園、西宮市貝類館、海遊館、大阪南港野鳥園、大阪市立自然史博物館、きしわだ自然資料館、貝塚市立自然遊学館

■関連行事

子ども向けワークショップ、普及講演会、セミナー、室内実習を行います。

<子どもワークショップ>

1. おしえてハカセ！うみのいきもの

平成25年8月10日(土)・11日(日)・24日(土)・25日(日)、9月21日(土)・22日(日)

大阪の海には、どんな生き物がすんでいるの？サカナハカセとお話してみよう。生き物を知ったあとは、海のなかが一目でわかる素敵な下じきをつくろう。

時間：午前11時～、午後1時30分～、午後3時～（1回約60分のプログラムです。）

定員：各回15名

場所：特別展会場・ワークショップスペース

対象：小学生以上（定員に余裕のある場合は未就学児童も受け入可）

受付：当日受付（各回スタート10分前から受付開始）

参加費：材料費200円（高校生以上は、別途特別展入場料が必要）

2. 磯絵巻～フナムシ・ウミウシ・イシダタミガイ～

平成25年8月3日(土)・4日(日)・8月17日(土)・18日(日)

ザワザワゾロゾロ、おもしろいフナムシ。いろとりどり、きれいなウミウシ。くるくる、小さなイシダタミガイ。磯の小さな生き物をじっくり見るよ。お気に入りの生き物を、絵巻物に描いてみよう。

時間：午前11時～、午後1時30分～、午後3時～（1回約60分のプログラムです。）

定員：各回15名

場所：特別展会場・ワークショップスペース

対象：どなたでも参加できます。（小学生未満は保護者同伴）

受付：当日受付（各回スタート10分前から受付開始）

参加費：材料費100円（高校生以上は、別途特別展入場料が必要）

3. お寿司屋「おおさかわん」

平成25年7月27日(土)・28日(日)

みんなが大好きお寿司屋さん。大阪湾でとれる、お寿司のネタって何かな？マダコ、タコ、アナゴ？おいしそうなものを見つけて、自分だけのお寿司を考えてみよう。オリジナルメニューだいぼしゅう！

時間：午前 11 時～正午、午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分（1 回約 30 分のプログラムです。）

定員：なし（混雑時はお待ちいただくことがあります。）

場所：特別展会場・ワークショップスペース

対象：どなたでも参加できます。（小学生未満は保護者同伴）

受付：実施時間内は随時受付いたします。

参加費：無料（高校生以上は、別途特別展入場料が必要）

<普及講演会>

「大阪湾の海の幸 今・昔」

大阪湾に古くから関わられ、著述もお持ちのお二人の講師をお招きし、大阪湾の漁業や暮らし、海の幸を紹介して頂きます。

【日 時】平成 25 年 8 月 18 日（日） 午後 1 時 30 分から午後 4 時

【場 所】自然史博物館 講堂

【講師】小藤政子氏（大阪府文化財保護審議委員）『海の幸』を願う漁民が今に伝えるもの／鷺尾圭司氏（独立行政法人水産大学校理事長）「大阪湾のサカナを美味しく食べる」

【参加費】無料（ただし、自然史博物館本館入館料が必要）

<自然史オープンセミナー>

特別展「いきもの いっぱい 大阪湾～フナムシからクジラまで～」の開催にちなみ、当館学芸員による、大阪湾の自然に関するセミナーを行います。

【日 時】平成 25 年 7 月 20 日（土）、8 月 17 日（土）、9 月 21 日（土）

いずれも午後 1 時から午後 2 時 30 分

【場 所】自然史博物館 集会室

【話題提供】7 月：山西良平（館長）「いきもの いっぱい 大阪湾～その秘密～」／8 月：波戸岡清峰（動物研究室）「大阪湾の魚たち」／9 月：石田惣（動物研

究室)「大阪湾の渚の自然 - その原風景と変遷」

【対象】どなたでも参加できます

【参加費】無料(ただし、自然史博物館本館入館料が必要)

<室内実習「バイごまをつくろう」>

江戸時代、大阪ではバイという海の巻き貝の殻で作ったこま遊びが大流行しました。これはその後に登場する「ベーゴマ」のルーツと言われています。江戸時代と同じ材料でバイごまを作ってみて、回して遊んでみましょう。

【日時】平成25年8月10日(土)午前10時から午後1時頃

【場所】自然史博物館 実習室

【対象】小学生以上(小学生には保護者の同伴が必要)

【定員】25名(定員を超えた場合は抽選)

【材料費】200円

【参加方法等】往復はがき又は電子メールに、「バイごまをつくろう」と明記の上、希望者全員の氏名、住所、年齢、電話番号、返信用のあて名を書いて、7月29日(月)までに届くように、自然史博物館普及係あてに申し込んでください。

【その他】抽選の結果や持ち物などは返信でお知らせします。

・〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

・gyouji@mus-nh.city.osaka.jp

※多数の関連行事を予定しています。詳細は決まり次第、自然史博物館ホームページなどでお知らせいたします。

■ブロガーの皆様ご招待について

特別展の広報に協力して頂けるブロガーの方20名を、開幕前日の一般内覧会、または開幕2日間のいずれかに無料でご招待いたします。

・一般内覧会：平成25年7月19日(金)午後2時から午後4時30分まで(午後1時30分より受付開始)

・開幕2日間：平成25年7月20日(土)または21日(日)午前9時30分から午後5時まで(入場は随時、最終入館は午後4時30分まで)

・会場：自然史博物館 ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター 2階)

・参加頂ける方：以下の2つの条件を両方とも満たす方

1 ご自身でブログを開設されていること

2 ご自身のブログに特別展の紹介記事を必ずお書きいただけること

・申込：電子メールに「特別展ブロガー招待申込み」と明記、名前、居住地の都道府県名、電子メールアドレス、ブログタイトル、ブログ URL を書いて、平成 25 年 7 月 15 日（月・祝）までに届くように自然史博物館 総務課宛に申し込んでください。平成 25 年 7 月 17 日（水）に抽選を行い、結果を申込者全員にメールにて返信させていただきます。当選者のみ参加方法等の詳細を合わせてお知らせいたします。

・その他：当日参加はできません。必ず申込みをしてください。

・問合せ／申込先：自然史博物館 総務課

電話：06-6697-6221 メール：s-nyukansha@ocmo.jp



<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館

総務課 広報 宛

TEL.06-6697-6222 FAX.06-6697-6225

〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

特別展「いきもの いっぱい 大阪湾～フナムシからクジラまで～」

プレス内覧会取材申請書

プレス内覧会における取材をご希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、総務課広報宛にFAXにてご返信ください。

■ プレス内覧会

〔日時〕平成25年7月19日（金）

午前11時～

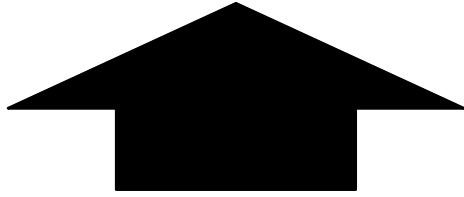
〔会場〕大阪市立自然史博物館

本館 集会室

※博物館通用口からお越しください。



貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
人数（カメラ含む）	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. FAX. e-mail.



<FAX送信>

F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

送信先：大阪市立自然史博物館

総務課 広報 宛

TEL.06-6697-6222 FAX.06-6697-6225

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

特別展「いきもの いっぱい 大阪湾～フナムシからクジラまで～」

会期中、会場内における取材を希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、原則、取材の3日前までにFAXにてお送りください。なお撮影時間につきましては、会場の混雑状況などにより、事前に調整させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。また、貴媒体内での読者・視聴者プレゼントに限り、特別展の招待券を10組20名様分、ご提供させていただきます。お手数ですが、掲載媒体を1部（掲載紙・誌、CD-ROM、DVD-ROMなど）お送りくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

取材申請・招待券 申込書

貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
取材日	平成25年 月 日 () : ~ :
人数 (カメラ含む)	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. FAX. e-mail.
掲載記事・放送番組名	
掲載日 (発行日) 放送日時	
招待券	希望する 希望しない

